



足立区教育委員会では SDGs 教育を推進しています。

令和6年度 足立区立足立小学校

取組, 1 人権と生命を尊重する教育の推進



- 教育活動全体を通じた人権教育、道徳教育、安全教育の充実。
- いじめの定義を周知徹底し、いじめの未然防止、早期対応、早期解決に努める。
- 不登校傾向の児童に対し、校内及び関係機関との連携をし、組織的な対応の充実を図る。
- 特別支援教育に関する教員や保護者、地域の理解、ユニバーサルデザインへの理解、合理的配慮や個に応じた支援の推進をする。
- 家庭・地域・学校が三位一体となり、「生命の安全教育」の理解を高める。

取組, 2 基礎的・基本的な学習内容の確かな定着



- 足立スタンダードに基づき、子供の学びを支援する伴走者として、知識及び技能の習得と思考力、判断力、表現力等の育成、確かな学力の育成をする。
- 基礎的・基本的な学習内容のより一層の定着。「楽しく挑戦したくなる授業」（期待の登校）「わかる授業」（満足の下校）が展開できるよう研修の充実を図る。
- 学びの連続性を踏まえた取り組みを充実させるために、幼保小中の連携を充実。児童の実態に応じた連続性のある教育の推進をする。

取組, 3 体力向上に向けた取組の推進



- 体育科や体育的行事、休み時間等の運動・遊びを通して、児童が自らすすんで運動に親しむ資質や能力を身に付け、心身を鍛え、体力の向上を図る。
- 運動・遊びの日常化を学校・保護者・地域で図る。感染症対策に留意しつつ、児童が様々な運動・遊びに触れられるような活動や環境を想像し、地域全体で体力の向上に努める取り組みを創造する。
- 「元気アップタイム」「休み時間」での運動遊びを活性化させ、自ら運動に親しむ児童の育成を目指す。

取組, 4 地域の特色に合った魅力ある教育活動の展開



- タブレット、PCなどICT機器を利活用する。探究活動への主体的・対話的な深い学び、eライブラリやAIドリルの活用を通じて、21世紀型能力の育成をする。
- 指導と評価の一体化を図る授業改善を図る。
- 教科横断的な学習の充実を通して、学習効果の最大化を図る。
- ホームページや学校メール、一人1台のタブレット等を活用し、積極的に情報発信し、保護者・地域と連携の連携を図る。
- 学校評価や学習に関するアンケートを通して学校の教育力を高め、教育活動の改善・充実を図る。
- 子供たち一人一人に危険を予測し、回避する能力を身に付けるための継続的な安全教育と防災教育を推進する。

取組, 5 SDGsを意識した教育活動の充実

○カリキュラム・マネジメントの充実と教科横断的な学習活動を通し、持続可能な開発目標(SDGs)を意識した教育活動の充実を図る。



- ・委員会活動を通して給食の残菜を減らす呼びかけをする。年間を通して数回「もりもり給食ウィーク」や「一口目は野菜から」の活動を実施する。
- ・ユニセフ活動や愛のはがき運動、服のプロジェクト(難民に服を送る)を通して、世界の貧困状況を知る。自分にできることを考え活動を行う。



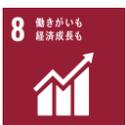
- ・5年、社会科の「食料生産」では日本の食料生産の実態を学習し、地産地消などできることを考える。



- ・6年、薬物乱用防止教室等で薬物やアルコールの乱用を防止する。
- ・6年、たばこの害についても理解し、健康増進に努める気持ちを育む。
- ・6年、がん教育を通じて、生活習慣について見直し、健康増進に努める気持ちを育む。
- ・体育健康教育推進校として、授業をとおして取り組む。



- ・4年、社会科「水はどこから」では安全な水が届くまでや下水処理について学習する。併せて水道キャラバンを活用して、水の大切さについて考える。



- ・2年、生活科で町探検をする。町の人々の仕事や働いている様子、生活の様子について学習し、自分の町に対する愛着を育む。
- ・5年、食料生産・工業生産において、自分の町について学ぶ機会を設ける。



- ・足立区キャリア教育推進事業(キッズニアやTGG)を活用し、学習する。体験活動等を通して、将来展望をもち働くことに対する関心を高める。
- ・一人1台タブレットによる、ICT学習の推進。



- ・4年、総合的な学習の時間において外国の文化を理解し、その国々の文化や良さを感じる。併せて、日本の文化の良さに改めて気付き、今ある文化を大切にできる精神を育む。
- ・3年、弱視体験を通してユニバーサルデザインについて考える。
- ・目の教室、ひまわり学級との交流活動を行い、それぞれの学級に対する理解を図る。



- ・社会科の学習で世界遺産や文化遺産について理解し、保護・保全に努める精神を育む。
- ・4年、社会科「ごみの処理と再利用」について学習し、物の大切さについて考える。
- ・3年、「総合的な学習の時間」では昔の暮らしについて知り、これからの生活を考える。
- ・3年、「おはやし体験」を通して町の文化について理解し、文化保全の精神を高める。
- ・1年、生活科での「昔あそび」を通して、日本の文化に触れ楽しむ。
- ・2年、生活科での「町が大好き」では、身近な町について触れ親しむ。



- ・家庭科「住みよいくらし」ではリサイクルについて学習し、使えるものは最後まで使う気持ちを育む。また、図工科では材料を無駄なく最後まで活用する。
- ・ピカクリン活動を通して、住みよいきれいな街を自分達で作る意識を高める。



- ・理科や社会科では水害をはじめとする災害や、温暖化や気象変動について学習する。また、災害に対する防災意識やCO₂排出に目を向け、環境保全の気持ちを高める。



- ・5年、社会科の「水産業」について学習し、水産資源を守ることを考える。限られた水産資源を守り、育てることの大切さを考える。



- ・5年、社会科の「自然環境・森林の役割」について学習し、森林減少の問題について考える。限られた森林資源を活用し、森林を守ることの大切さを考える。
- ・土手探検や全学年遠足から、荒川の自然環境に親しむ。



- ・SNS東京ルール、SOSの出し方やセーフティ教室、安全指導など外部の先生の授業などを通して、防犯意識や交通事故、SNSの安全な活用の仕方について知識を高める。
- ・防災ノートを活用し、自助、共助、(公助)、自分達にできることを考える。